

# 24 回日本テレワーク学会研究発表大会 軽井沢大会プログラム

～進化型テレワーク・ワーケーションの本質とは～ リゾートテレワーク先進地軽井沢の事例に学ぶ

■大会日程 2022年10月1日(土) 8時45分～17時30分

■軽井沢会場 WORK × ation Site 軽井沢 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字野沢原 1323 番 1387

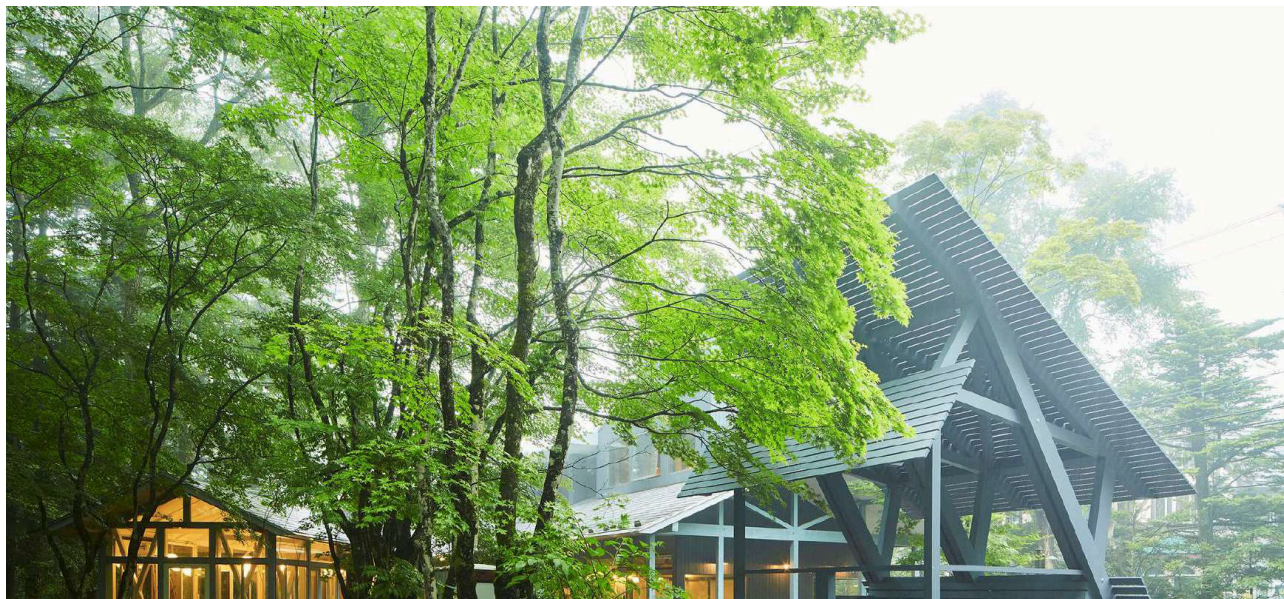
■ZOOM による参加も可

受付 8 時 30 分から

	セッション A 発表 (敬称略) テレワーク・ワーケーション・移住	セッション B 発表 (敬称略) コロナ禍・地域・働き方
8:45～ 9:00	はじめに ご挨拶 鈴木幹一 (大会実行委員長・信州大学・福井県立大学)	●進行●事務局
9:00～ 9:30	報告●発表者● 中嶋大輔 (長野県) ●発表テーマ● 信州リゾートテレワークの目指す姿 ●進行●中西穂高 (学会副会長・帝京大学)	論文●発表者● 眞崎昭彦 (みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社) ●発表テーマ● 新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの課題 ●進行●金丸利文 (学会理事・沖電気工業)
9:30～ 10:00	報告●発表者● 宮路省平 (糸魚川市) ●発表テーマ● 親子ワーケーション体験入学を実施して ●進行●中西穂高 (学会副会長・帝京大学)	論文●発表者● 園 諸栄 (追手門学院大学) ●発表テーマ● コロナ禍の地方自治体によるテレワーク導入の実態と課題 ●進行●金丸利文 (学会理事・沖電気工業)
10:00～ 10:30	報告●発表者● 松尾英理子 (サントリーコーポレートビジネス株式会社) ●発表テーマ● 地域課題解決型ワーケーションの大いなる可能性 ●進行●久保隆行 (理事・立命館アジア太平洋大学)	論文●発表者● 後藤 学・濱野和佳 (株式会社原子力安全システム研究所) ●発表テーマ● コロナ禍におけるテレワークに関する継続的調査の概観 ●進行●中村 仁 (理事・跡見学園女子大学)
10:30～ 11:00	報告●発表者● 入江真太郎 (一般社団法人日本ワーケーション協会) ●発表テーマ● 豊かなライフスタイルを実現する次世代ワーケーション ●進行●久保 隆行 理事・立命館アジア太平洋大学)	論文●発表者● 佐藤彰男(龍谷大学)・柳原佐智子(富山大学)・ 高木修一 (大阪公立大学)・中井秀樹(大阪成蹊大学)・加納郁也(兵庫県立大学)・古賀広志(関西大学) ●発表テーマ● COVID-19 パンデミック下における完全在宅勤務の様態 ●進行●中村 仁 (理事・跡見学園女子大学)
11:00～ 11:30	報告●発表者● 芳野まい(東京成徳大学)、大藤敏行 (軽井沢高原文庫)、鈴木幹一(信州大学・福井県立大学) ●発表テーマ● リバラルアーツワーケーションとは：フランスと軽井沢の事例から読み解く ●進行●野口邦夫 (監事・社労士のぐちくにを事務所)	論文●発表者● 中西穂高 (帝京大学) 小豆川裕子 (常葉大学) ●発表テーマ● クラウドソーシングの地域に与える影響の考察 ●進行●松村 茂 (特別顧問・東北芸術工科大学)
11:30～ 12:00	報告●発表者● 佐藤達郎 (多摩美術大学) ●発表テーマ● テレワークがもたらす「移住」の新たな可能性 ●進行●野口邦夫 (監事・社労士のぐちくにを事務所)	報告●発表者● 市川宏雄 (明治大学) 三宅博史 (大都市政策研究機構) ●発表テーマ● 日本のコワーキングスペースの拡大と展望 ●進行●松村 茂 (特別顧問・東北芸術工科大学)
12:00～ 13:30	昼食休憩 参加者各自 再開は 13 時 30 分から	
13:30～ 14:00	論文●発表者● 網川雄大 (明治大学大学院) ●発表テーマ● テレワークによる移動の拡大と仕事・生活の実態 ●進行●小豆川裕子 (副会長・常葉大学)	論文●発表者● 松村 茂 (東北芸術工科大学) ●発表テーマ● テレワーカーが地方で仕事を継続できない条件 ●進行●中西穂高 (学会副会長・帝京大学)

14:00~ 14:30	論文●発表者● <b>床桜英二</b> (徳島文理大学) ●発表テーマ● 持続可能なワーケーションモデルの探求	論文●発表者● <b>姜 国浩</b> (東京農工大学) ●発表テーマ● テレワークの中にコミュニケーションの課題及び発展に関する研究
	●進行●小豆川裕子 (副会長・常葉大学)	●進行●中西穂高 (学会副会長・帝京大学)
14:30~ 15:00	報告●発表者● <b>柄沢忠祐</b> (株式会社フォレストコーポレーション) ●発表テーマ● 軽井沢へのオフィス移転 サードオフィス事例	論文●発表者● <b>下崎千代子</b> (井上エージェント) <b>武居奈緒子</b> (摂南大学) ●発表テーマ● テレワークにおける形式知と暗黙知—人材育成の課題を 探る
	●進行●権丈英子 (亜細亜大学)	●進行●古賀 広志 (理事・関西大学)
15:00~ 15:30	報告●発表者● <b>浅生亜也</b> (PerkUP 株式会社) ●発表テーマ● テレワーク時代に有効な企業合宿の市場と可能性	論文●発表者● <b>中村由美</b> (中村学園大学短期大学部) ●発表テーマ● 働き方の変化がもたらす「時間」価値の変化
	●進行●権丈英子 (亜細亜大学)	●進行●古賀 広志 (理事・関西大学)
15:30~ 16:00	休憩 (休憩中 定例総会・理事会)	
<b>基調講演・パネルディスカッション</b>		
16:00~ 16:30	●テーマ ウイズコロナ・ポストコロナにおける働き方としてのテレワーク	
16:30~ 17:30	<p>●<b>基調講演</b> テーマ・軽井沢の MICE 戦略、軽井沢リゾートテレワーク協会の戦略</p> <p><b>講師 土屋芳春 様</b> (一般社団法人軽井沢観光協会会長、軽井沢リゾートテレワーク協会会長)</p> <p>●<b>パネルディスカッション</b>●<b>現場からの提言</b></p> <p>テーマ・ライフスタイル移住急増の軽井沢に学ぶ進化型テレワーク・ワーケーションの本質</p> <p>Panelist <b>玉木慶介 様</b> (三菱地所フレキシブル・ワークスペース事業部) <b>大月 均 様</b> (御代田町移住、ムーンノード株式会社代表取締役、 信州大学社会基盤研究所特任講師) <b>富川久代 様</b> (軽井沢町移住、元リーマンブラザーズ代表清算人 10 年、セレクトショップ経営)</p> <p>Moderator <b>中西 穂高</b> (日本テレワーク学会 副会長 帝京大学)</p> <p>質疑応答・フリーディスカッション</p>	
17:30~	おわりに ご挨拶 市川宏雄 (大会委員長 明治大学)	
17:40~	移動	
18:00~ 20:00	懇親会	
	<p>●会 場 鈴木大会実行委員長の別荘 会場のワーケーションサイト軽井沢から徒歩 1 分</p> <p>●会費制 参加費 6,000 円/一人 (事前予約制 予定)</p> <p>●事前申込 参加希望者を事前に受け付けます。</p>	

注) 氏名・敬称略 プログラムの発表者、進行者は変更になる場合がございます。



2018 年から政府は、TOKYO2020 開催に伴う交通混雑緩和策としてテレワークの普及を積極的に進めてきた。また 2020 年には世界的な新型コロナ感染拡大に伴い、政府は拡大防止策としてテレワークやワーケーションの普及を積極的に行った。テレワークやワーケーションは、二つの目的を実現するために急速に普及してきた。

一方軽井沢におけるテレワークの普及は、30 年以上前にさかのぼる。当時から別荘所有者は別荘をリゾートオフィスとし、ごく自然に別荘で仕事をしていた。2017 年からは、主に民間事業者によってテレワークの環境がさらに整備された。2018 年 7 月には軽井沢リゾートテレワーク協会（会長：土屋芳春）が設立され、軽井沢でのリゾートテレワーク体験会や、東京でリゾートテレワークの啓発活動や大手企業のオフィス見学会などを積極的に行った。豊かなライフスタイルを実現するためにはワークスタイルの多様性がひとつの有効な手段となる。とくにテレワークやワーケーションのような柔軟な働き方を実現することで、時間の有効利用が可能となり、通勤時間が短縮され、家族とのふれあいの時間も増え、生活をさらに豊かにすることができる。

なぜ軽井沢では、早い段階からテレワークが普及したのだろうか？ 軽井沢では、明治時代中期から、渋沢栄一、近衛文麿、徳川家や三井家など政財界人らが万平ホテルや三笠ホテルに集まり、交流していた。これが軽井沢のサロン文化の原点で、大正・昭和と時代が変わり、別荘に人を招いて交流するといった別荘文化に進化していった。今軽井沢では、別荘所有者・移住者・多拠点居住者・地域住民・観光客など多種多様な人たちが交わり語り、人的ネットワークをベースとして、新しい価値を創出し、イノベーションを誘発している。また、別荘所有団体・ボランティア団体・学術機関・各種勉強会・趣味のコミュニティーなどのソーシャルキャピタルが高く、人生を充実させている人が多くいる。こうしたライフとワークが融合した新しいライフスタイルの創造こそ、テレワークやワーケーションの本質であろう。

本大会では、豊かなライフスタイルの実現、ウェルビーイング、人的交流、新価値創造、イノベーションの誘発、地域貢献、学び、移住、東京一極集中の是正など幅広い視点からテレワークやワーケーションを見つめ直し、ライフスタイル型テレワーク・ワーケーションなど、次世代型ワーケーションについて積極的な議論を展開していきたい。

## 開催概要

【開催日程】 2022 年 10 月 1 日(土) 8:45~17:30 (予定)

【開催会場】 WORK × ation Site 軽井沢 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字野沢原 1323 番 1387

【発表申込】 ・発表要旨提出期限 : 2022 年 8 月 15 日 (月)  
・採択通知 (予定) : 2022 年 8 月 22 日 (月)  
・予稿集原稿提出期限 : 2022 年 9 月 12 日 (月)

【日本テレワーク学会誌 2022 年号の情報】

2022 年号への掲載のための投稿締め切りは下記の通りです。

- ・研究論文・実践論文 (査読付き) 2022 年 11 月 30 日
- ・特集論文・特集報告 (査読なし) 2023 年 01 月 15 日
- ・研究報告・実践報告 (査読なし) 2023 年 01 月 15 日

【お問合せ先】 第 24 回大会実行委員会 [taikai@jats-mail.net](mailto:taikai@jats-mail.net)